

ISO 学生委員会 環境意識継続調査 集計結果

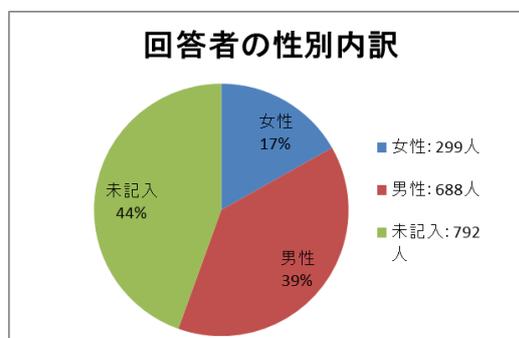
環境教育部会 2年 緒方 峻

調査期間：2014/9/18

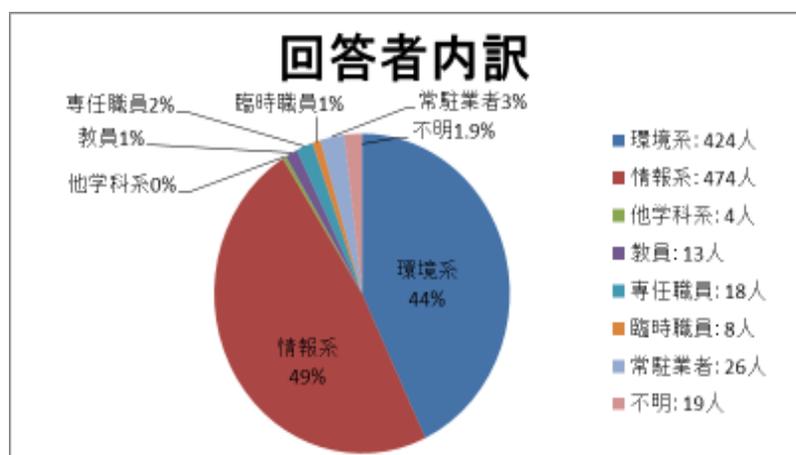
調査対象：東京都市大学 横浜キャンパス全構成員

回答者人数：2021人

回答者の性別	人数	割合	回答率	母数
女性	299	14.8%		
男性	688	34%		
未記入	792	39%		
合計	1756		49%	2021



回答者の所属	人数	割合	回答率	母数
環境系	424	44.3%	49%	893
情報系	474	48.4%	48.1%	993
他学科系	4	0.4%		
教員	13	1.3%		
専任職員	18	1.8%		
臨時職員	9	1%		
常駐業者	26	3.6%		
不明	19	1.9%		



環境系回答者の構成

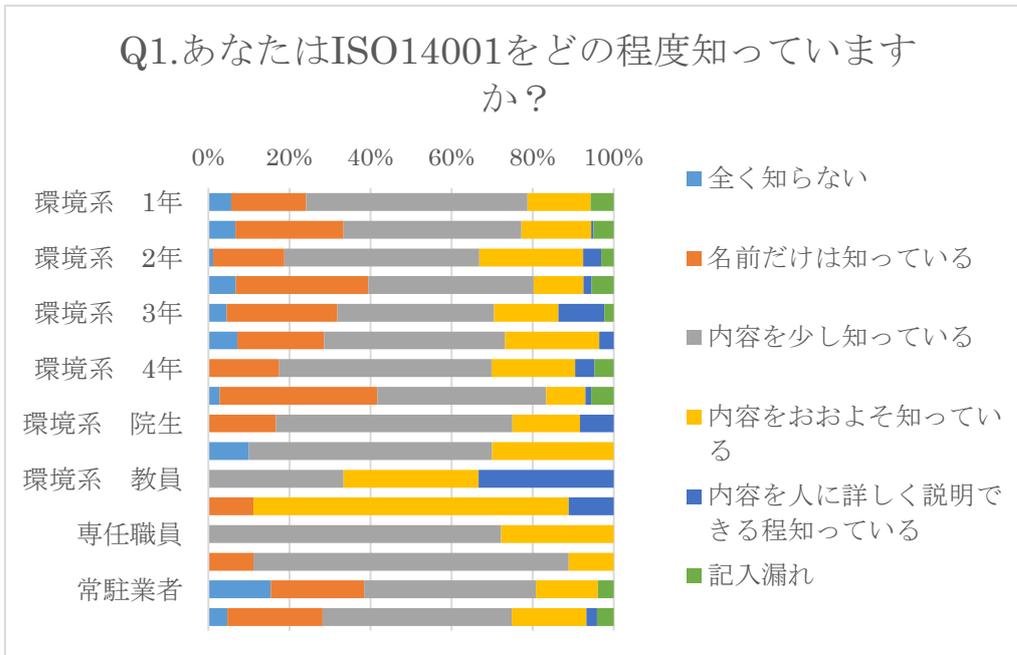
環境系回答者の構成	人数	割合	回答率	母数
環境 1年	141	33.3%	83.4%	169
環境 2年	160	37.7%	62%	258
環境 3年	44	10.4%	21%	210
環境 4年	63	14.9%	25%	256
院生	12	2.8%	100%	12
教員	4	0.9%	18%	22

情報系回答者の構成

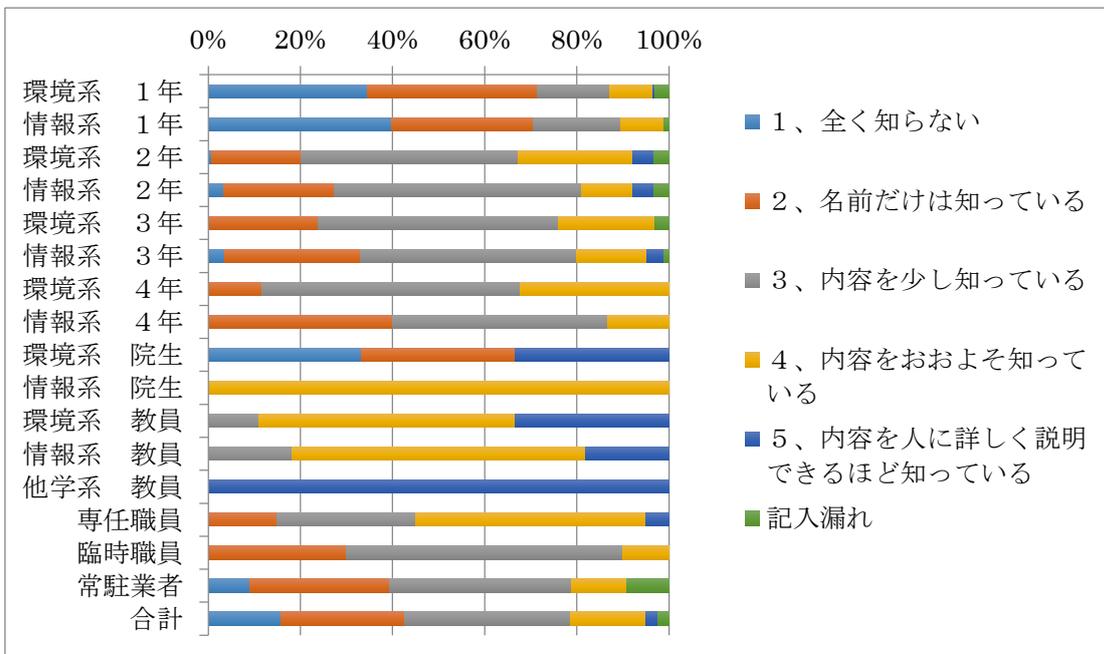
情報系回答者の構成	人数	割合	回答率	母数
情報 1年	180	38%	87.3%	206
情報 2年	147	31%	60.4%	243
情報 3年	56	11.8%	25.6%	218
情報 4年	72	15.2%	24.7%	291
院生	10	2.1%	100%	10
教員	9	1.8%	42.8%	21

ISO14001 認知度

2014 年度後期 ISO14001 認知度



2014 年度前期 ISO14001 認知度



考察

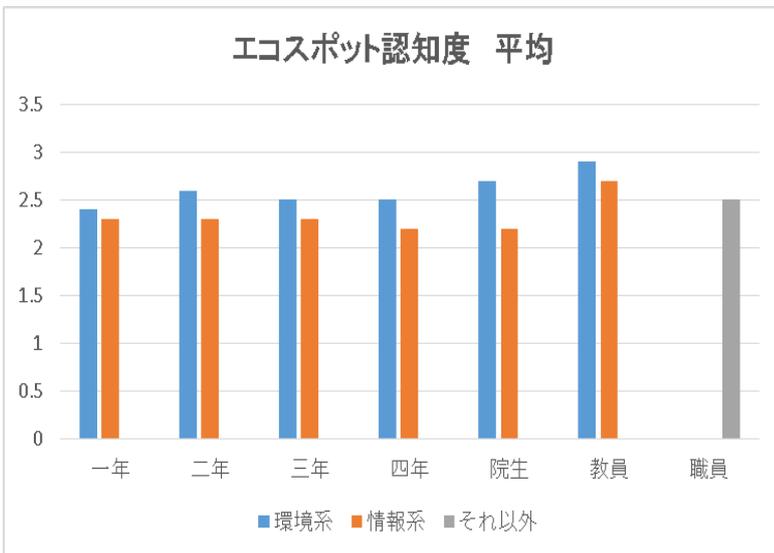
前期に比べて一年生の ISO14001 の認知度が上がっていた。その理由として日々 ISO がきちんと活動してきたことと講義や横浜キャンパスで過ごす中で学んだことが考えられる。

しかし、全体的に環境系と情報系の ISO14001 の認知度が前期と比較して、両者ともあまり変わらなかったことや環境系の院生が全く知らない割合がかなり上がっていることなど悪い点も見受けられた。

ISO14001 の認知度を上げるためにも ISO の活動目的をきちんと伝えることや継続して現学生に対して ISO とは何なのかを説明する機会を設けることなど ISO 学生委員会が何かしらのアクションを起こすことによって、アンケート結果も良い結果になるのではないかと考える。

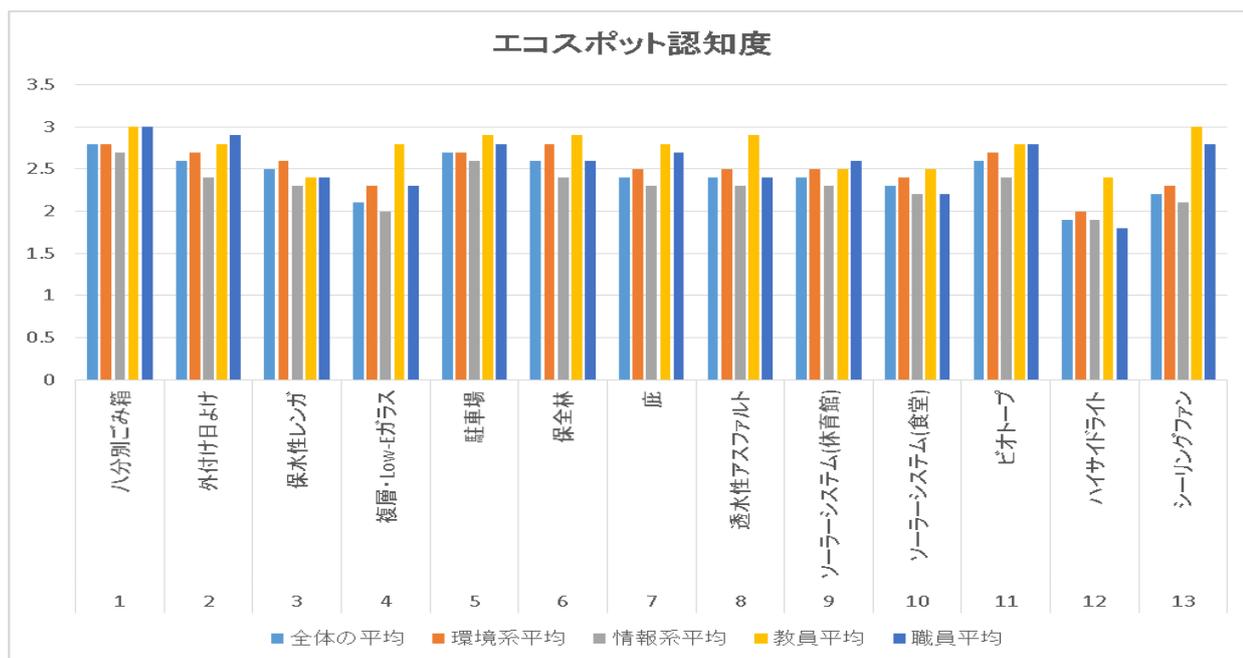
エコスポット認知度

エコスポットの認知度 平均			
	環境系	情報系	それ以外
一年	2.4	2.3	
二年	2.6	2.3	
三年	2.5	2.3	
四年	2.5	2.2	
院生	2.7	2.2	
教員	2.9	2.7	
職員			2.5



参照：エコスポット認知度…2014年度前期

エコスポットの認知度 平均			
	環境系	情報系	それ以外
1年	1.9	1.9	
2年	2.6	2.3	
3年	2.4	2.3	
4年以上	2.6	2.2	
院生	2.3	2.5	
教員	2.8	2.7	
職員			2.4

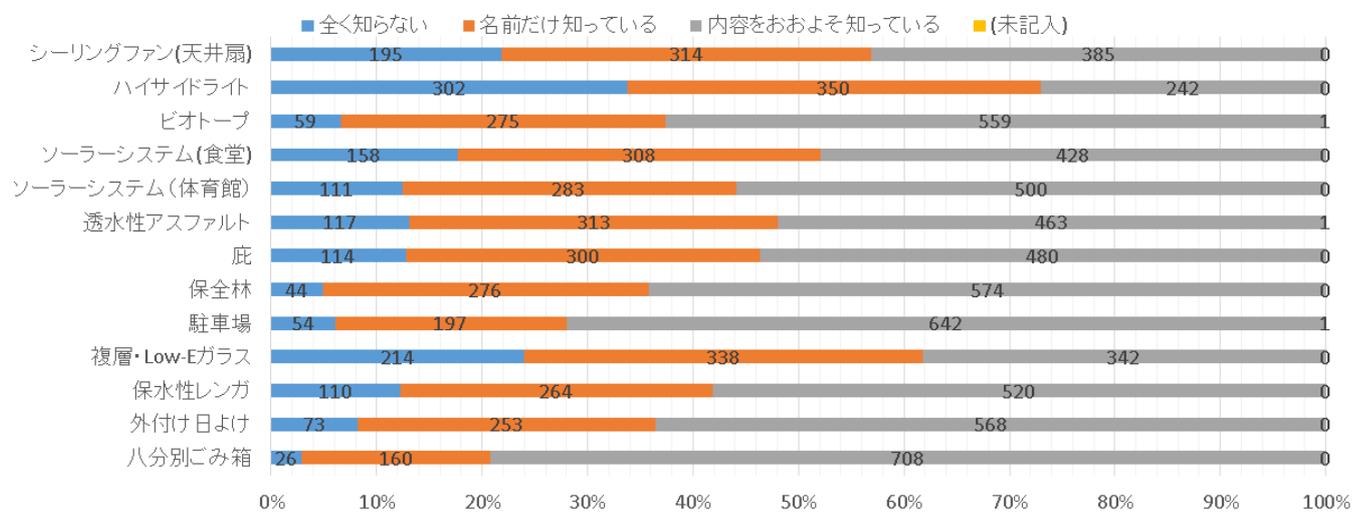


No.	エコスポット	全体の平均	環境系平均	情報系平均	教員平均	職員平均
1	八分別ごみ箱	2.8	2.8	2.7	3	3
2	外付け日よけ	2.6	2.7	2.4	2.8	2.9
3	保水性レンガ	2.5	2.6	2.3	2.4	2.4
4	複層・Low-Eガラス	2.1	2.3	2	2.8	2.3
5	駐車場	2.7	2.7	2.6	2.9	2.8
6	保全林	2.6	2.8	2.4	2.9	2.6
7	庇	2.4	2.5	2.3	2.8	2.7
8	透水性アスファルト	2.4	2.5	2.3	2.9	2.4
9	ソーラーシステム(体育館)	2.4	2.5	2.3	2.5	2.6
10	ソーラーシステム(食堂)	2.3	2.4	2.2	2.5	2.2
11	ビオトープ	2.6	2.7	2.4	2.8	2.8
12	ハイサイドライト	1.9	2	1.9	2.4	1.8
13	シーリングファン	2.2	2.3	2.1	3	2.8

【参照】 エコスポット認知度 (平均) …2014 年度前期

No.	エコスポットの認知度	全体の平均	環境系平均	情報系平均	教員平均	職員平均
1	8分別ごみ箱	2.6	2.6	2.6	3	2.9
2	外付け日よけ	2.3	2.4	2.2	2.8	2.7
3	保水性レンガ	2.2	2.3	2.1	2.8	2.6
4	複層・Low-Eガラス	2	2.1	1.9	2.7	2.3
5	駐車場	2.5	2.5	2.4	2.8	2.7
6	保全林	2.4	2.6	2.2	2.3	2.7
7	庇	2.3	2.3	2.2	2.9	2.7
8	透水性アスファルト	2.2	2.3	2.1	2.8	2.4
9	ソーラーシステム(体育館)	2.3	2.4	2.1	2.6	2.5
10	ソーラーシステム(食堂)	2.1	2.2	2	2.3	2.2
11	ビオトープ	2.4	2.5	2.2	3	2.8
12	ハイサイドライト	1.7	1.8	1.6	2.3	2
13	シーリングファン(天井扇)	2	2	1.8	2.9	2.7

Q2 あなたは(1)～(13)に示す、横浜キャンパスのエコスポットについてどの程度知っていますか？



	全く知らない	名前だけ知っている	内容をおおよそ知っている	(未記入)
八分別ごみ箱	26	160	708	0
外付け日よけ	73	253	568	0
保水性レンガ	110	264	520	0
複層・Low-Eガラス	214	338	342	0
駐車場	54	197	642	1
保全林	44	276	574	0
庇	114	300	480	0
透水性アスファルト	117	313	463	1
ソーラーシステム(体育館)	111	283	500	0
ソーラーシステム(食堂)	158	308	428	0
ピオトープ	59	275	559	1
ハイサイドライト	302	350	242	0
シーリングファン(天井扇)	195	314	385	0

【参照】 エコスポット認知度 (3 択) …2014 年度前期

	全く知らない	名前だけは知っている	内容をおおよそ知ってる	未記入
8分別ごみ箱	96	210	690	574
外付け日よけ	203	246	547	574
保水性レンガ	244	267	485	574
複層・Low-Eガラス	340	284	371	575
駐車場	172	195	629	574
保全林	141	325	529	575
庇	211	303	481	575
透水性アスファルト	255	302	441	572
ソーラーシステム(体育館)	236	266	495	573
ソーラーシステム(食堂)	290	309	397	574
ピオトープ	176	287	535	572
ハイサイドライト	500	275	222	573
シーリングファン(天井扇)	367	304	325	574

考察

・1年生のエコスポット認知度に関しては前期より上昇しており、環境・メディア両学部において認知平均は2を上回る結果になった。(環境系…2.4・メディア…2.3)

この結果は環境学部1年の回答率は83.4%、メディア情報学部1年は87.3%であるから両学部全体で認知度が上昇したと判断するに、十分に信頼に値する数値であると考えられる。

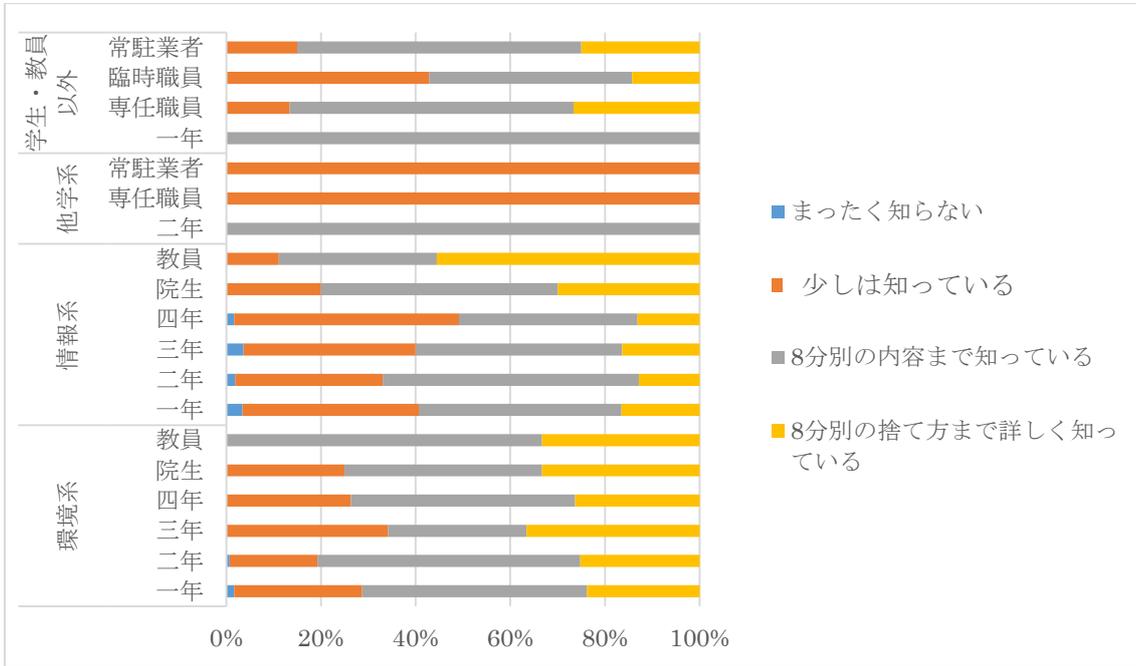
・複層・Low-E ガラスや、シーリングファン、ハイサイドライト等のエコスポットでは、他のエコスポットよりも数値が低い傾向にある。特にハイサイドライトに関しては各アンケート対象で最も低い数値を出しており前期と比較しても数値の上昇率が低いことがわかる。これは、全て日常的に何気なく使用しているものが多いほか、シーリングファン、ハイサイドライトに関しては新入生教育等のエコキャンパスツアーで紹介しなかったことが要因と考えられる。

・メディア情報学部における各学年認知度平均の数値が前期からの変動が低い他、今回の調査における1・2・3年の認知度平均が同じ事から、ある一定の認知度からそれ以上あまり認知されていない事が考えられる。また、環境学部と比較しても前期と比較した認知度平均の上昇率も低い傾向にある。これは、メディア情報学部の方では講義で話題にならない事や、エコスポットとの関わりが少ない事が考えられる。

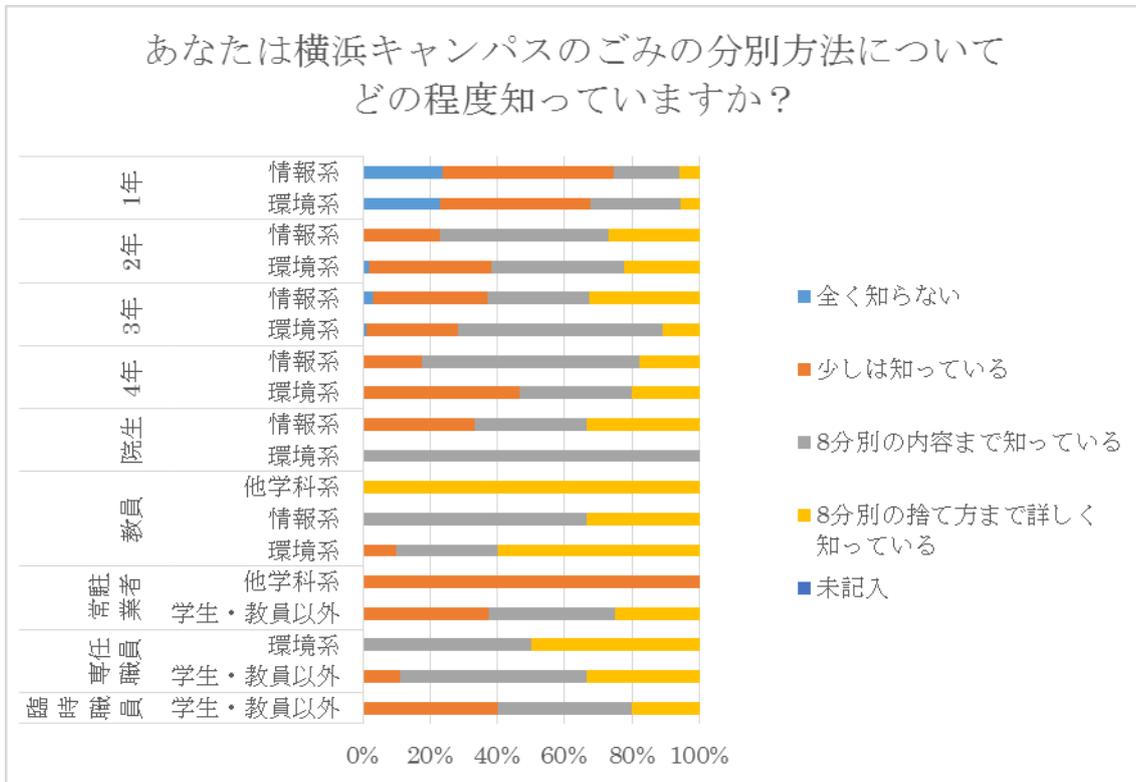
・全体的にエコスポットの認知度は上昇傾向にある。これは、1年生に関しては講義の中や、新入生教育等のエコキャンパスツアーで認知度が上昇したと十分考えられる。全体として、「名前だけは知っている」の項目に関しては当企画の前期アンケートで名前を知った可能性が考えられる。

・上記の考察より考えられる解決案として、ポスター、学内パソコンのログイン画面等の掲示物でより一層のエコスポットの周知を図る他、エコスポットの「見える化」等の広報活動を行うことだと考える。メディア情報学部の認知度向上に関しては、エコスポットに関わる機会を増やし、自分たちにエコスポットがどう関係しているかを認知させる(他人事にさせない)必要が考えられる。

ごみ分別認知度 2014 年度後期



参照：ごみ分別認知度 2014 年度前期



考察

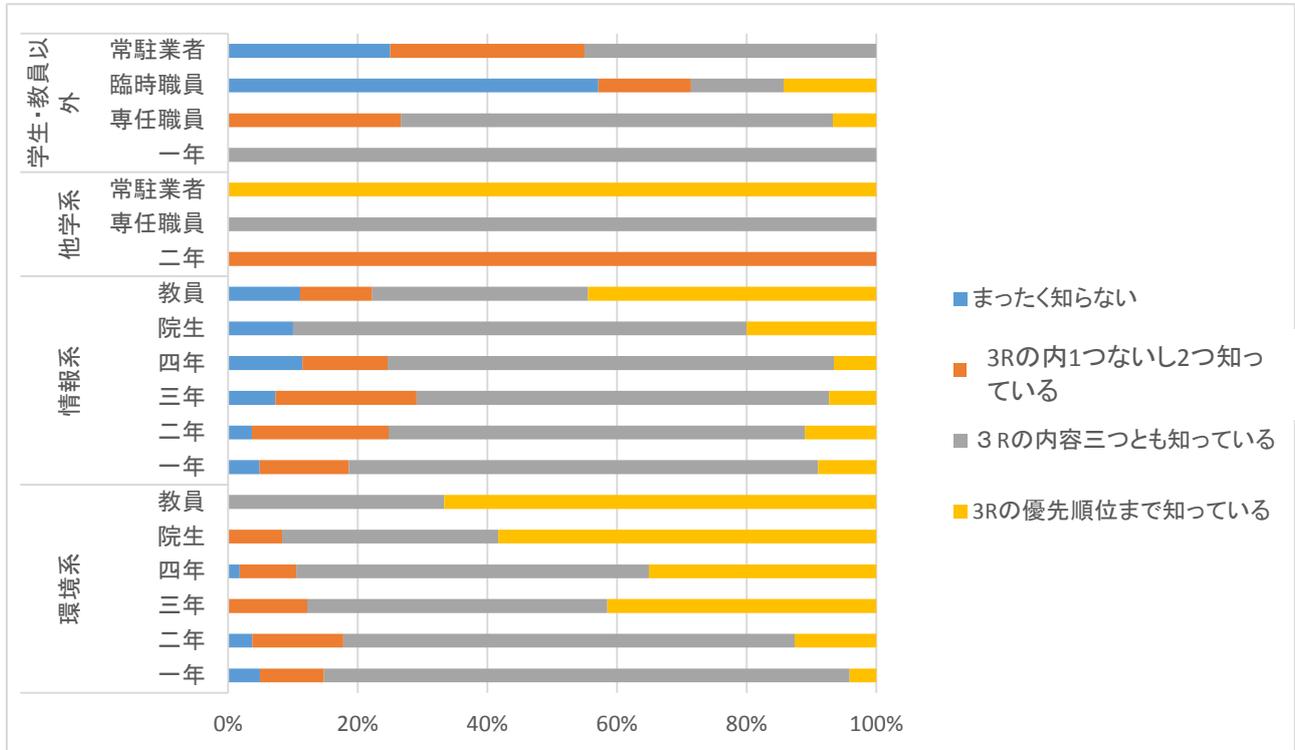
・分野で比較すると、1・2年生では、環境系の方がより認知度が高いということが読み取れる。これは授業内でもこの分野の話に触れる機会が多いからであると考えられる。

・前期調査と比較して、1年生の「全く知らない」と答えた人の割合が減少したことから、大学に慣れることで認知度が高まったと考えられる。

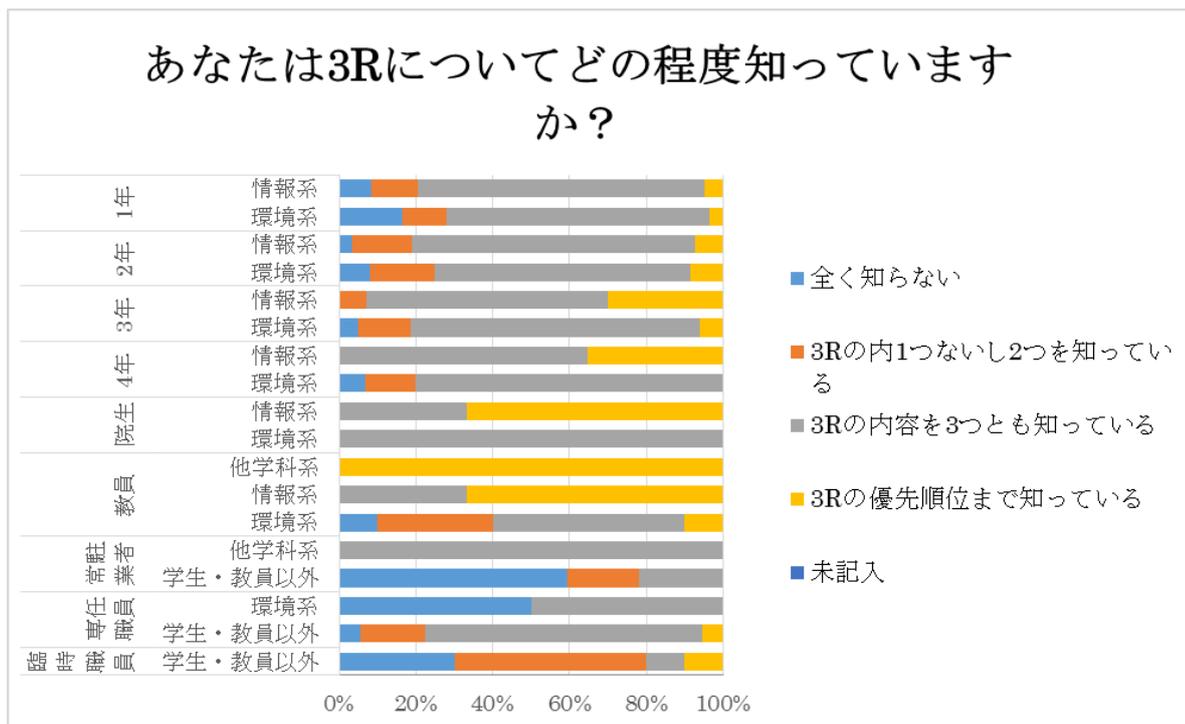
・教員に関しては、何故か環員の教授より情報系の教員のほうが、認知度が高いという結果になった。これは大学にいる年数が情報系教授のほうが長いなど、別の要因が絡んでいるかもしれない。

・「少しは知っている」という回答項目自体の表現が曖昧なので、「8分別することは知っている」などと変更したほうが良いかもしれない。しかし、そうすると、例えば、可燃・不燃・ペット・缶などに分けることは知っているが、8分別なのか7分別なのかは知らない、という人は何を選択すればよいのか等の課題が存在するため、来期においては検討が必要であると考えられる。

3R 認知度 2014 年度後期



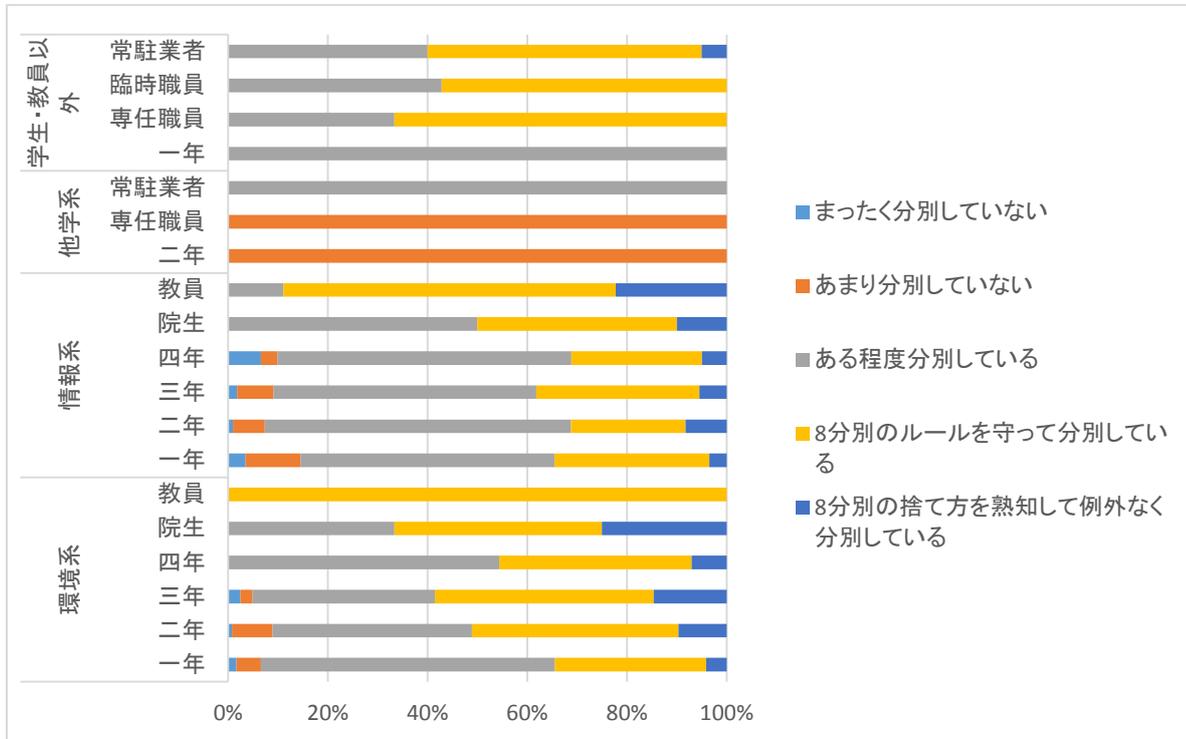
【参照】 環境意識継続調査 04・3R 認知度 2014 前期



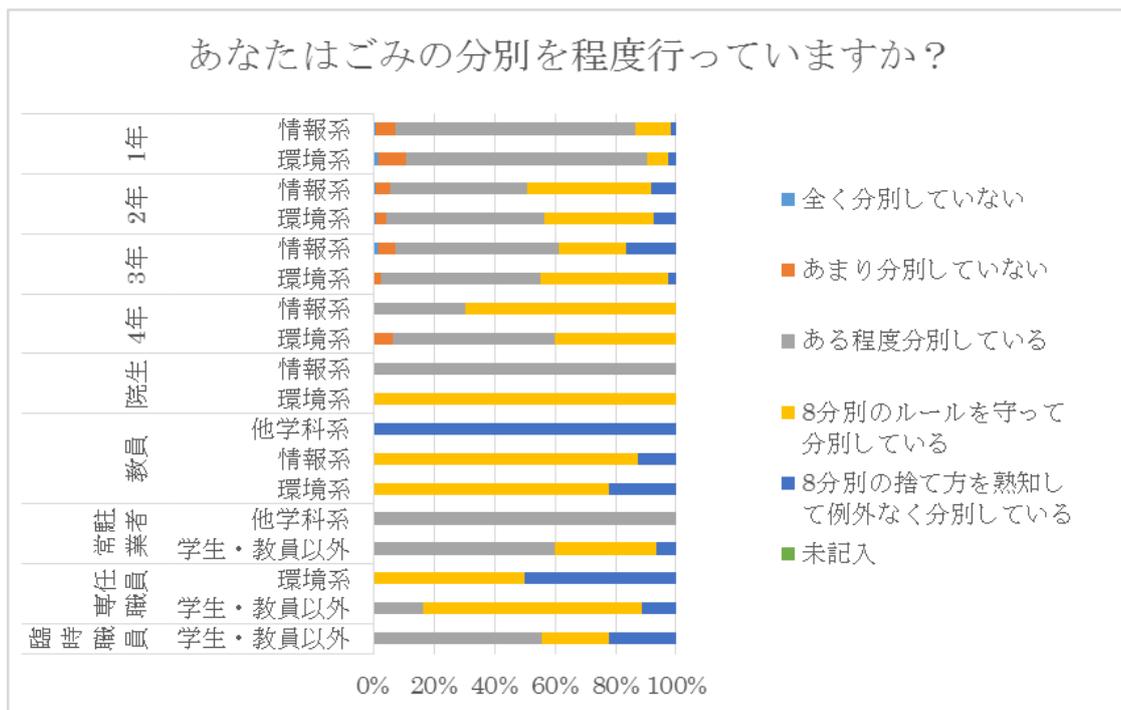
考察

- ・全体的に見て3Rの認知度は大学以前に学んでいる場合が多いためか、ごみの分別認知度よりも高い結果となった。ここの要因の一つにはISOの啓発活動が認知度を高くしたことも考えられる。
- ・職員に関しては、前期と同じく臨時職員の認知度の低さが目立つ結果となった。

ごみ分別（8分別）認知度 2014年度後期



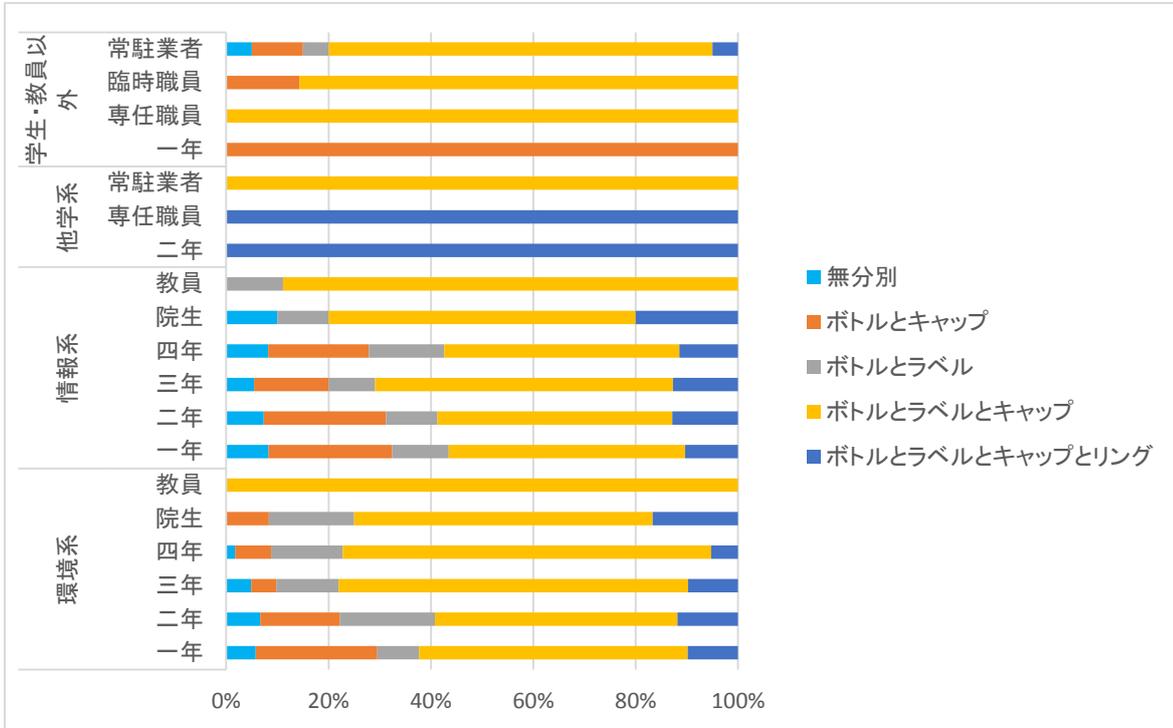
【参照】 考察 05_分別実施度 2014 前期.



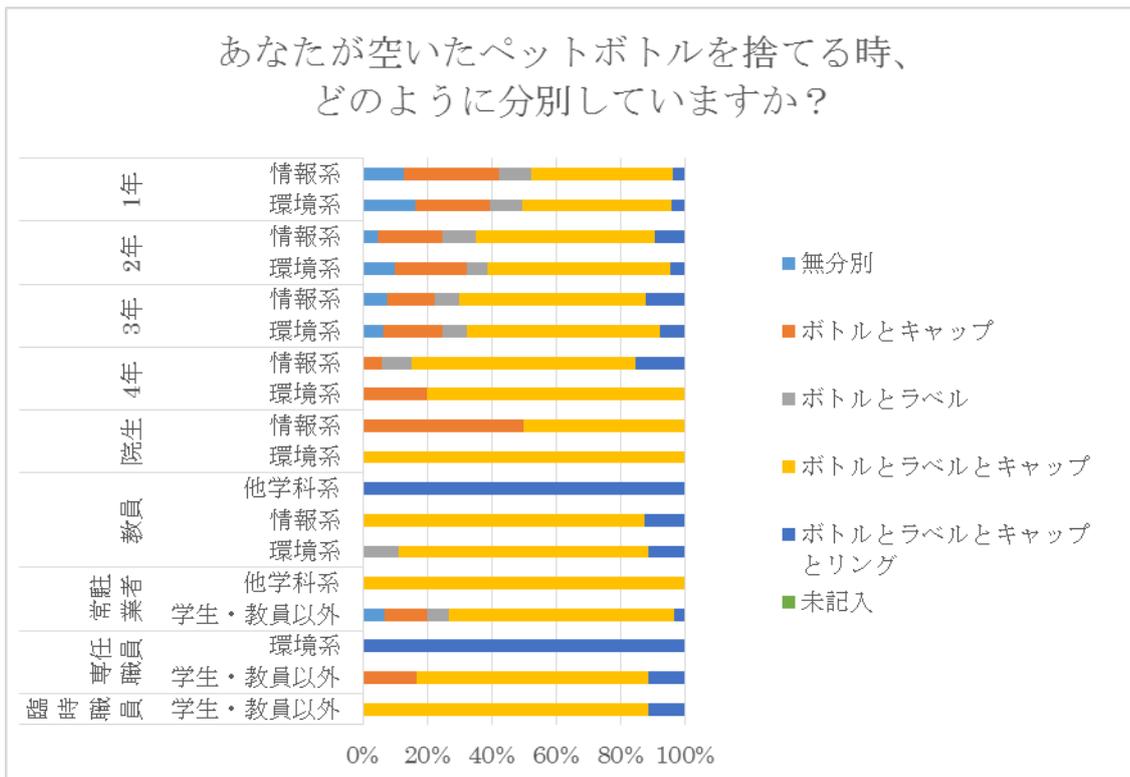
考察

- ・ISO 学生委員会でガイダンス時などに啓発はしているが、全体的に見ても正しく分別を行っている人の割合はそれほど高くない結果となった。
- ・学年進行とともに、実施率は上がる傾向にあると考えられる。
- ・分別率低下の原因は、分別の認識自体が誤っていて、正しい分別が行えていないことが関係しているのではないかと考える。
- ・ある程度の人々は分別してくれているが、全体で見たときに分別していない人がいる以上、何らかの対策が必要だろう。

ペットボトル分別認知度 2014 年度後期



【参照】 考察 06_分別実施度 2014 前期.

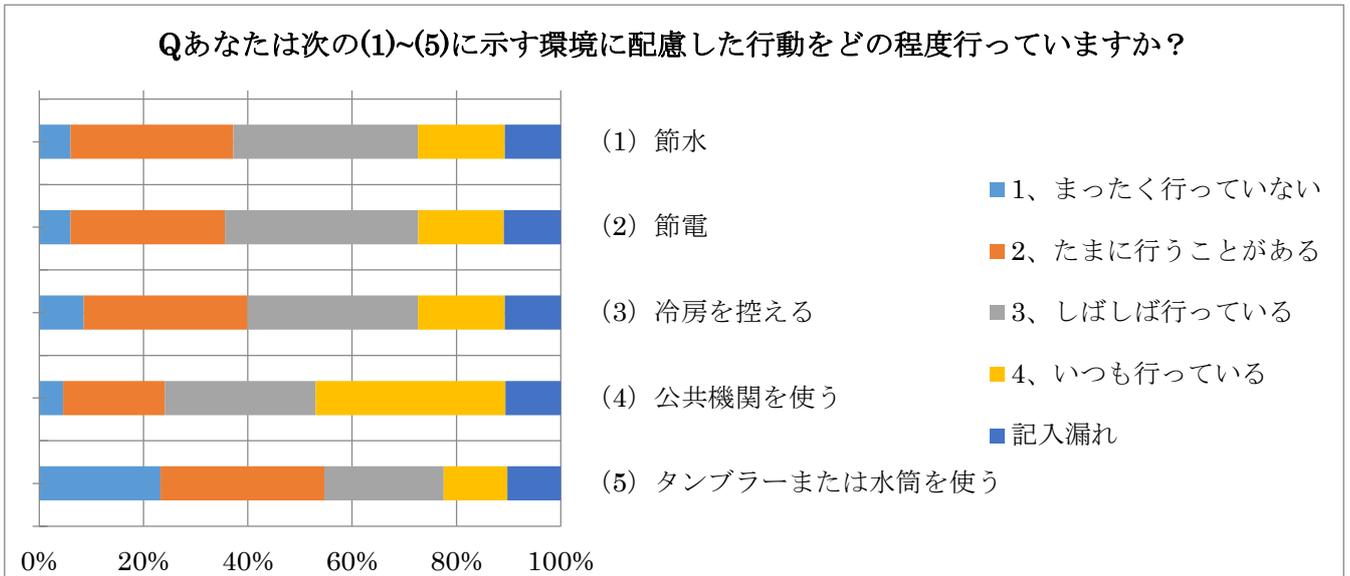


考察

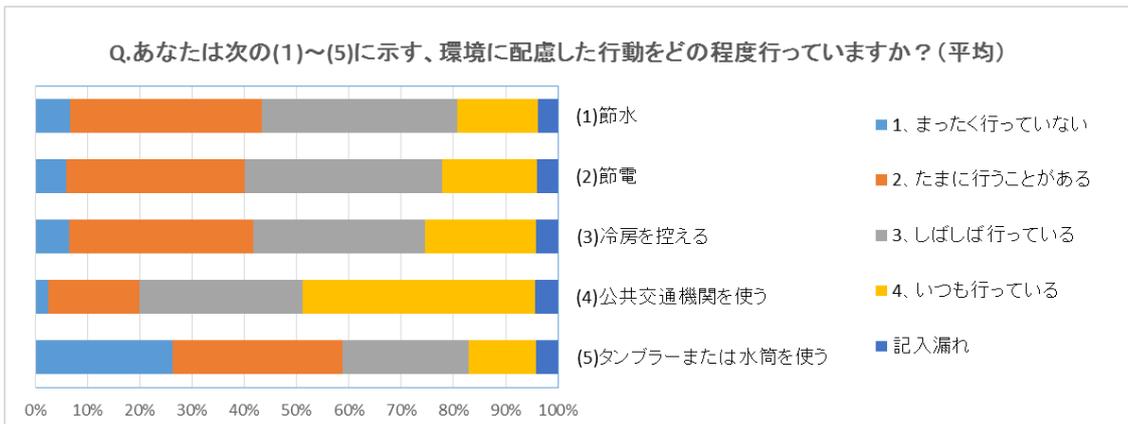
- ・ペットボトルの分別方法に関しては良く周知されており、全体的に見てほとんどの人がラベルやキャップを分別している。
- ・学年が高いほど分別率が高いのも、大学にいる年数が長いほど慣れてきているからだと考える。
- ・リングに関しては、キャップやラベルに比べると分別率が低い結果となっていた。これはリングを外す道具が一部にしかないことや、リングを外すことがどのようなことに繋がるのかがしっかりと周知できていないことが原因ではないかと考える。

環境配慮行動

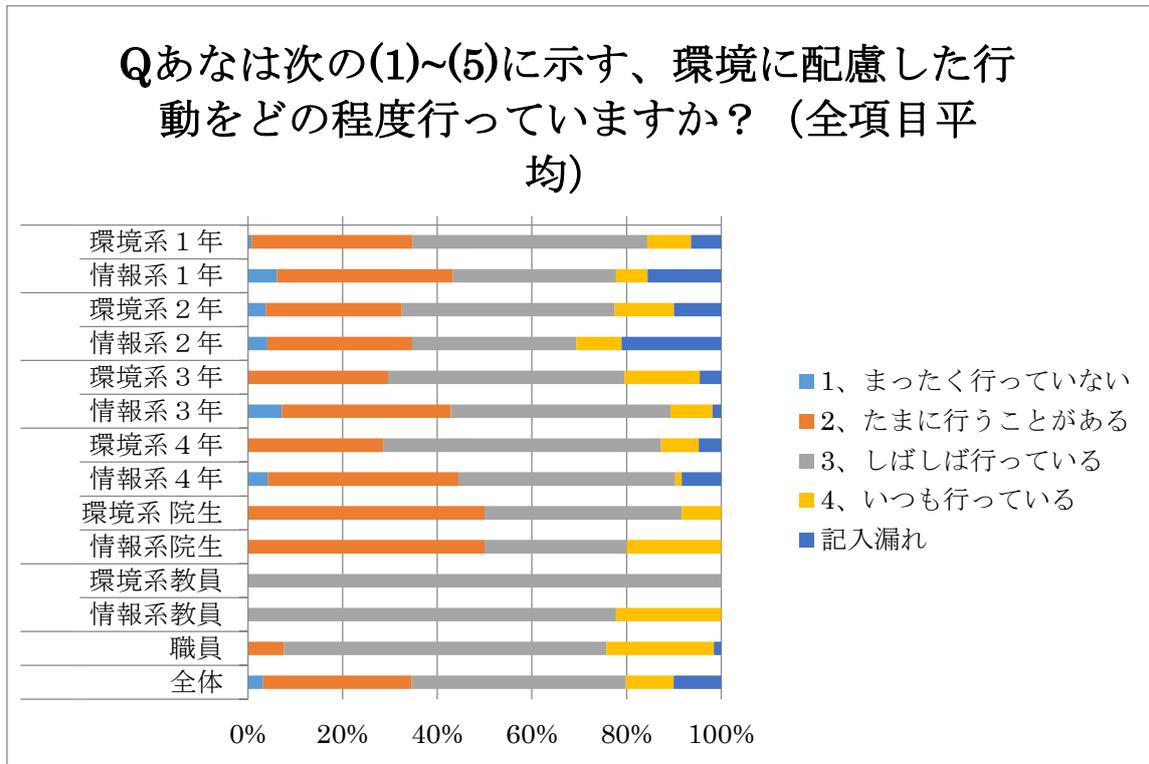
<2014 年後期>



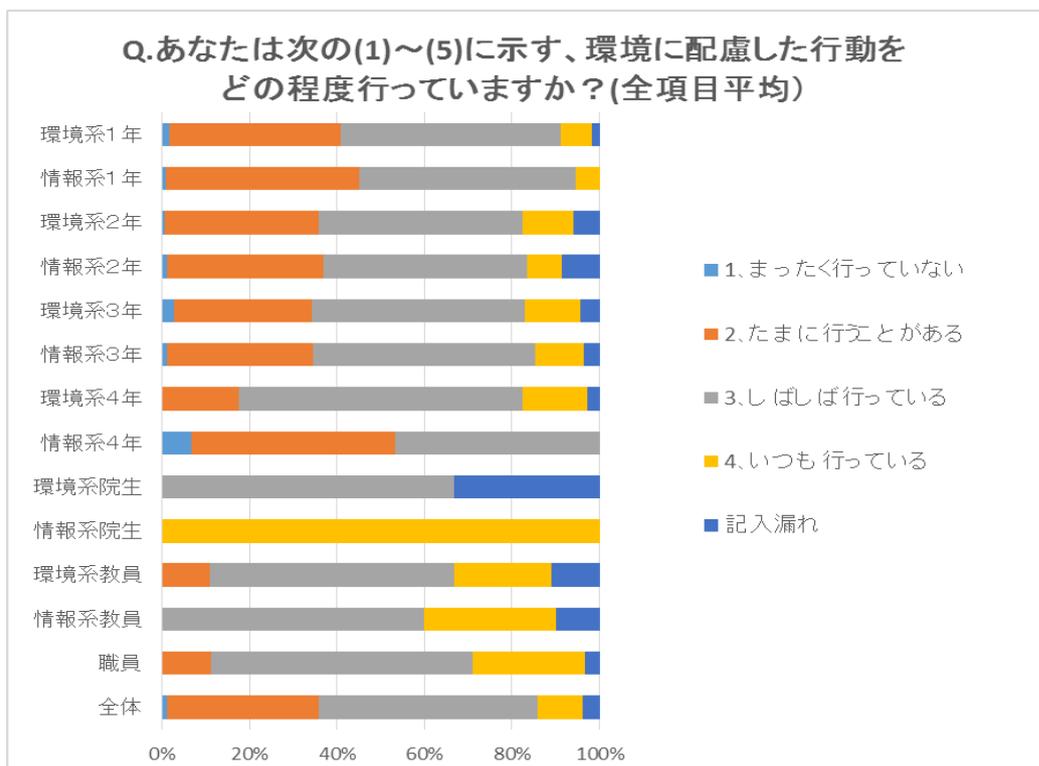
【参照】 環境配慮行動-2014 年前期



全項目平均値：<2014 年後期>



<2014 年前期>



考察

「環境に配慮した行動」に関して、(1)(2)(3)は割合の比がどれも似ている。これは環境を意識している人が3つの項目を同じようにこなしているからだと考えられる。逆を言えば3つのどれかやっていない人は他もやっておらず、意識の差がはっきりしていると思われる。(4)の公共交通機関の利用の利用者が多いのは、普段から通学・通勤で電車・バスを利用しているからであると考えられる。前回同様、約2割しかタンブラー・水筒を使用していないが、これは使用するために準備が必要で、構内に給水器が設置されているために必要性を感じないからであると考えられる。また、どの項目も前回と比べ大きな変化は見られないため省エネの啓発をさらに強める必要がある。

環境系の学生と情報系の学生で環境への意識の差はほとんど見られないが、「全く行っていない」と回答した割合が両方とも増加している。この割合は環境系より情報系のほうが高く、環境に関する授業が少なかった情報系の学生は意識が薄れていることがわかる。全体として見ても記入漏れが多いというのは、それだけ環境について真面目に考えていないととらえられる。学内でISO学生委員会は例年通りの活動しかやっていないため、全体として変化がなく、今までのやり方では啓発が足りていないことが明らかとなった。